



東北大学による東日本大震災1年後報告会「国際減災研究協力の体制構築に向けて」が3月11日、仙台市青葉区のトラストシティカンファレンス・仙台で行われた
Photo by H. Takahashi (以下同様)

【被災地はいま…… 東日本大震災から1年 仙台発】

■ 東日本大震災1年後報告会を開催～東北大学・仙台～

《Bosai Plus》特約リポーター・高橋英彦/防災士

2011年3月11日に発生した大震災の被災地の現状等について、東北大学による東日本大震災1年後報告会「国際減災研究協力の体制構築に向けて」が3月11日、仙台市青葉区のトラストシティカンファレンス・仙台で行われた。この報告会は被災地の復旧・復興過程の現状を知り、過去の大震災からの復興について学び、復興に向けて大学の役割等を考えるという主旨で東北大学防災科学拠点が開催、関係者や市民ら約300名が参加した。

東北大学の井上明久総長が「東日本大震災の被災地域における中核大学として、被災からの復興・地域再生を先導する研究・教育・社会貢献等に戦略的かつ組織的に取り組み、その成果を発信・実践するため、東北大学災害復興新生研究機構を創設させていただいている。基本理念はこれまで経験したことのない大震災からの復興、地域再生、被災地の拠点として貢献すること。東北、日本のみならず災害復興を目的とした総合研究開発のための世界的COEを形成する。災害復興に貢献するため、これまでの部局の枠にとられない横断的な研究組織で課題解決型のプロジェクトを形成し、戦略的・組織的に取り組むことが重要だ。本日、災害科学国際研究協力共同宣言フォーラムを実施、ハーバード大学、ロンドン大学等7カ国から9大学、国内6大学、合わせて15大学で調印式を行った」と挨拶した。

報告会は、「東日本大震災における提言や教訓を世界に共有し次世代に継承する」など5項目の国際協力のための共同宣言の紹介につづき、復興推進委員会委員長で防衛大学校長、五百旗頭 真(いおきべ・まこと)氏の基調講演「東日本大震災からの復興と教訓の発信～我が国・世界の減災に向けて～」、東京工業大学教授・翠川三郎氏の招待講演「東日本大震災からの教訓～1年で明らかになったこと～」が行われた。

このうち、基調講演を行った五百旗頭氏は「17年前の神戸の震災のとき、国は復旧にはお金を出すが、復興、つまりそれよりいいものをつくるということについては、びた一文出せない。神戸はリッチだろうと突き放された。これは大変な国益の損失であった。かつて神戸港はコンテナ輸送で世界をリードしていた。その後、技術革新で釜山やマカオが水深15メートルの大型コンテナ船を持って動くようになり、神戸の水深12メートルを追い抜き、神戸は競争力を失い衰退することになった。大震災に見舞われた。今度は釜山やマカオに負けない埠頭をつくりたいと神戸は言っていた。しかし神戸だけ優遇はできないと国からの支援はなく元どおりの埠頭がつくられた。これは神戸だけではなく、日本全体の不幸だった」と神戸の経験を話し、

「今回の東日本大震災ではこういうことであってはいけぬ。日本社会全体が高齢化長寿化しており、福島原発事故にも示されるように再生可能エネルギーの可能性を尋ねるのが人類史的な課題ではないか」と神戸の失敗を繰り返してはならないことを強調した。

このほか、4月から発足する災害科学国際研究所の教員、工学研究科量子エネルギー工学専攻・石井慶造教授の「福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の影響とその対応」、医学系研究科国際保健学分野・上原嶋夫教授「被災者のいのちと健康を護るために何を備えるべきか? -3.11. 地震津波災害の教訓と提言-」など7件の報告が行われた。

防災科学研究拠点副代表で東北大学災害制御研究センター長の今村文彦教授は「3.11 東日本大震災から1年が経った。当時を振り返ると、1カ月後、3カ月後、半年後と定期的に情報交換をさせていただいた。震災直後、何故このような大震災が起きたのか。我々はどうの備えをしなければならぬのか。余震活動がどうなのかといった様々な質問を寄せられ、コメントを返させていただいた。本日は大きな節目である。基調講演の五百旗頭 真先生からは歴史的な観点から、関東大震災、阪神・淡路大震災で、当時どのような対策をして、どのような復興を成し遂げていったのか。阪神大震災では復旧しかできなかった。復興には予算がつかなかったという報告が印象的だった。また、東北大学が災害科学国際研究所を設立したその理念としては、国内外の巨大地震の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的な防災学の礎を築くことを目標としている。このような研究支援に関心を持っていただき、ご協力をお願いしたい」と報告会を締めくくった。

この東北大学の災害科学国際研究所の発足により、被災地ははじめ各方面から新たな防災拠点としての役割に大きな期待が寄せられている。

[>>東北大学大学院工学研究科 災害制御研究センター](#)

*東北大学による東日本大震災1年後報告会で使用された資料をダウンロードできます。



写真上、「東日本大震災からの復興と教訓の発信～我が国・世界の減災に向けて～」と題して基調講演を行う五百旗頭 真・復興推進委員会委員長/防衛大学校長。下は、防災科学研究拠点副代表で東北大学災害制御研究センター長の今村文彦教授